

第3回栗山町ケアラー支援推進協議会

令和5年3月27日（月）

1. ヤングケアラー実態調査結果

ヤングケアラー実態調査の実施と公表

- 令和4年11月に町内の小学校5～6年生、中学校及び高校の全学年に対して調査を実施（全数調査）
- 調査方法は、各校に調査票を配布し、直接回収
- **配票数528件 回収数459件 回収率86.9%**

（有効回答数435件）

※詳細は、別途報告書を参照

- 令和5年1月に、調査報告を各学校に対して行い、町ホームページで公表

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

町内におけるヤングケアラーの総数

- 確認できるヤングケアラーの総数は**21名**（うち高校生の町外2名を含む）であり、全体の**4.8%**

所属	ヤングケアラー		合計	%	(参考) 北海道	(参考) 全国
	(町内)	(町外)				
栗山小学校	6人	0人	6人	4.8%		
角田小学校	1人	0人	1人	8.3%		
継立小学校	2人	0人	2人	9.5%		
小学校全体	9人	0人	9人	5.7%	4.7%	6.5%
栗山中学校	8人	0人	8人	4.6%	7.2%	5.7%
栗山高校	2人	2人	4人	3.9%	5.8%	4.1%
全体	19人	2人	21人	4.8%		

※全道・全国と同程度の数字にある。30人学級で1～2名程度

ケアの対象者とその理由

設問：あなたがお世話をしている人がいれば、すべて教えて下さい（複数回答 n=21）

回 答	件数	%	北海道		
			小学校	中学校（2学年）	高校（全日）
きょうだい	13	61.9%	47.2%	38.8%	28.5%
母親	4	19.0%	8.7%	4.7%	7.9%
祖父	3	14.3%	19.9%	3.7%	4.5%
祖母	2	9.5%	27.0%	8.2%	10.1%
父親	0	0.0%	5.1%	1.7%	2.2%
その他	0	0.0%			
無回答	2	9.5%			

設問：あなたがお世話をしている理由を教えてください（複数回答 n=21）

回 答	件数	%
まだ小さい（幼い）ため	13	61.9%
高齢（65歳以上）のため	3	14.3%
認知症（物事を覚えられない、忘れてしまう）ため	3	14.3%
身体や心などに「障がい」があるため	2	9.5%
食事や服を着たりすることが、自分一人では、できないため	1	4.8%
お酒などを止められなくなっているため	0	0.0%
病気やけがのため	1	4.8%

※「きょうだい」の世話は、全道・全国と比べて多い傾向にある

ケアを始めた年齢

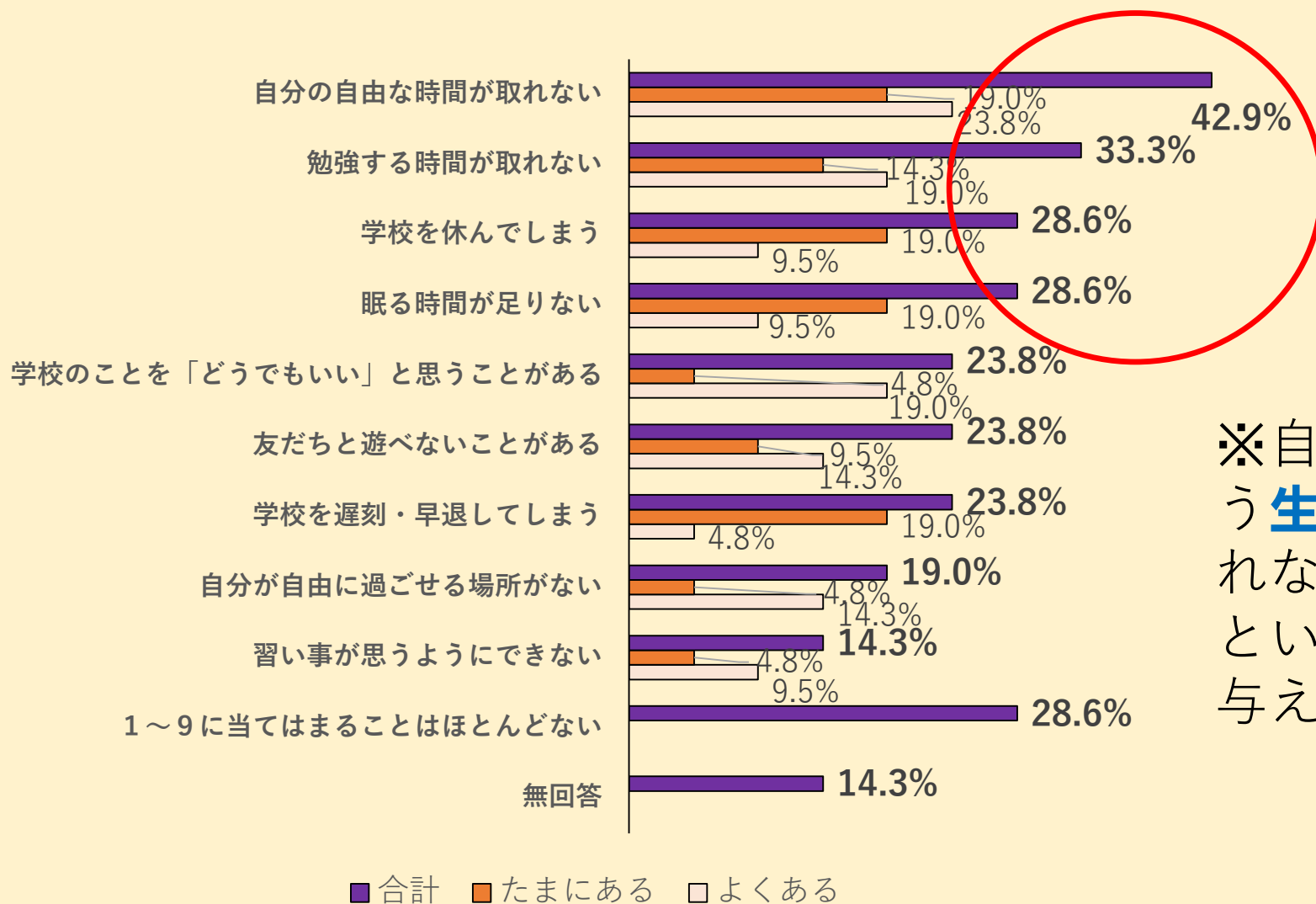
ヤングケアラーにケアを始めた年齢を尋ねると、小学校、中学校、高校とケアの開始年齢が上昇する傾向があった。平均は**9.4歳**であり、小学校中学年頃から家族のケアを担い始める傾向にある。

設問：お世話は、あなたが何才くらいの頃から、していますか。

設問／学校	小学校	中学校	高校	平均
() 才くらいの頃から	8.0	10.5	13.7	9.4

※「きょうだい」の世話は、幼いから世話をしていないというわけではない

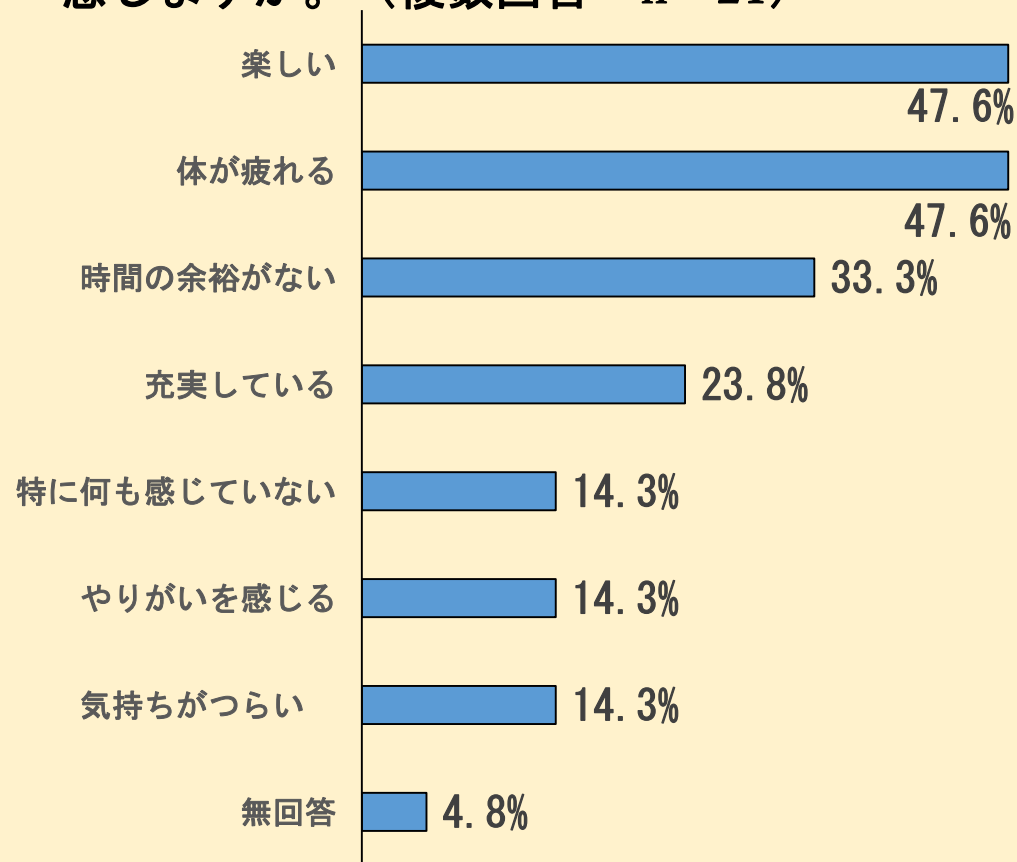
ケアによる生活の影響



※自由な時間が取れないという**生活面**や勉強する時間が取れない・学校を休んでしまうという**学業面**に大きな影響を与えている結果がわかった。

ケアの受け取り方

設問：あなたは、お世話をしていて次のことを感じますか。（複数回答 n=21）



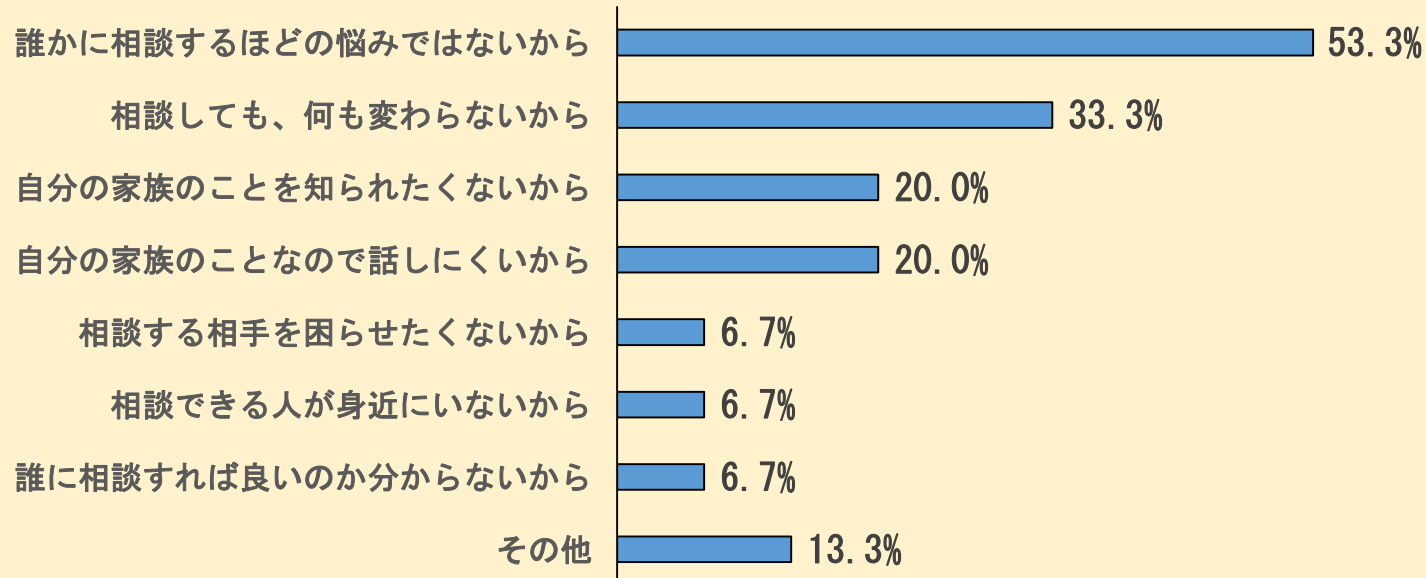
ヤングケアラーは日常的なケアにより、**疲労感や時間的な制約を受ける**者が多い。

一方で、そのケアが「楽しい」、「充実している」いう回答も多く、ケアに対しての**自己肯定感や目的意識が高い**ことが伺える。

相談の有無と対象

- 相談を他者に行うことが少なく、**71.4%**が「**ない**」と答え、「ある」と答えた回答は、対象がすべて「**家族**」。相談していない理由も、悩みとして感じていない、または気づいていない、相談しても生活環境が変わらないと受け止めている。

設問：相談していない理由を教えてください。（n=21）



ケアに関して支援してほしいこと

「特にない」「わからない」の回答が多いが、これには気がつかない、思いつかないなどの可能性もあり、**合計66.7%のヤングケアラーが支援の必要性を捉えていないと考える必要性がある。**

設問：あなたは、お世話していることに関して、学校の先生や周りの大人に対して支援してほしいことはありますか。（複数回答 n=21）

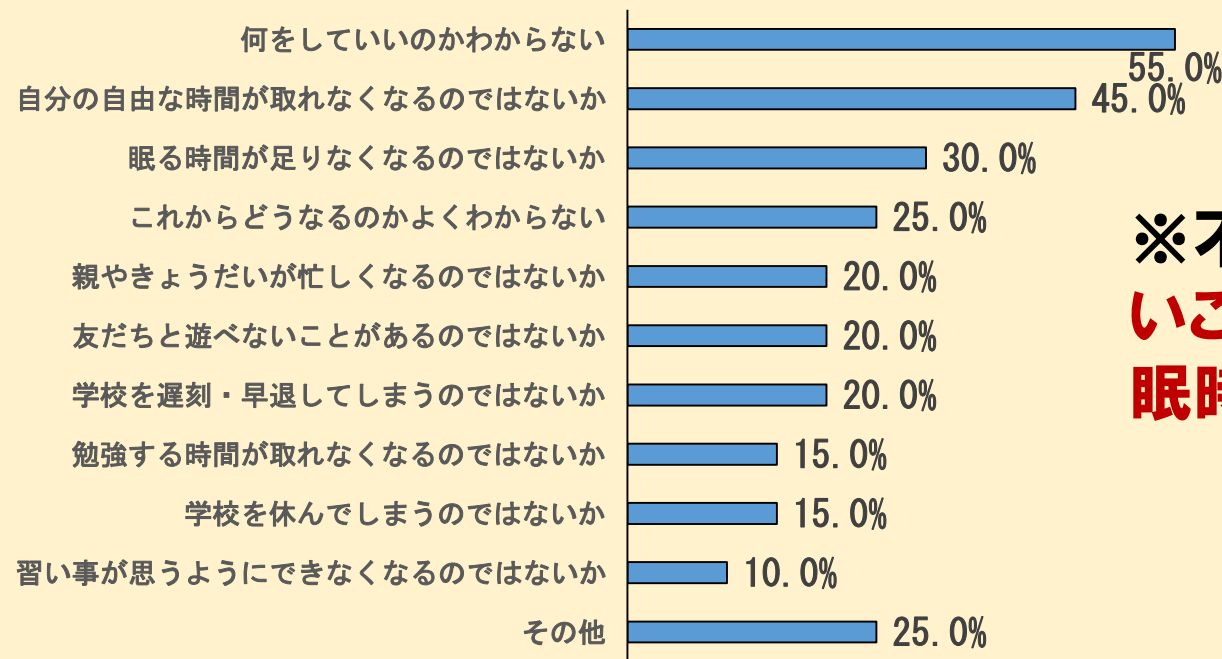
回 答	%
特にない	52.4
わからない	14.3
自分の自由に過ごせる場所がほしい	14.3
家族の病気や障がい、お世話の仕方などについてわかりやすく説明してほしい	14.3
学校の勉強や受験勉強など学習のサポートをしてほしい	9.5
自由に使える時間が欲しい	9.5

※上位6位を抜粋

今後のケアの対象者と不安

- 近いうちにケアの対象者になる者がいると回答した者で対象者を尋ねると「**祖母**」7.3%、**祖父**「4.1%」となり祖父母の高齢化の認識とケアの可能性を受け止めている。
- そのうちケアすることに不安が「**ある**」が45.5%と半数近い。

設問：お世話をすることを不安に思う理由は何ですか。（複数回答 n=20）

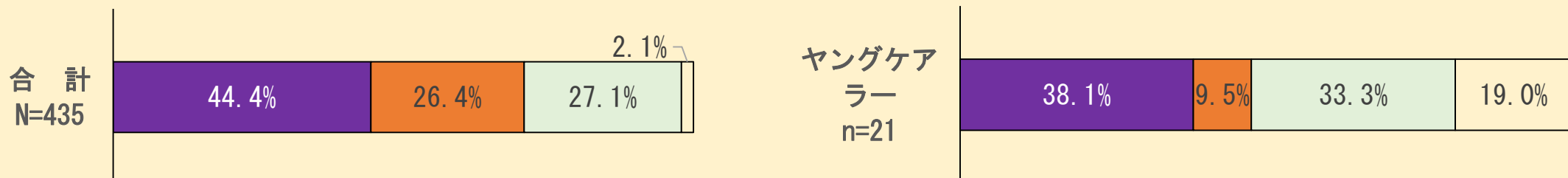


※不安に思う理由は、**イメージがつかないことへの不安や、時間的な制約、睡眠時間の心配が多い**

「ヤングケアラー」の認知度

- 全体のうち**70.8%**が「ヤングケアラー」を聞いたことがある。
これをヤングケアラーに絞ると**47.6%**と言葉の認識が低い結果になった。
- 認知度の学校別 小学校67.3% 中学校82.7% 高校55.9%

設問：「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（N=435）



- 聞いたことがあります、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- 無回答

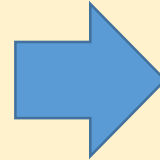
生活の中での悩み事・困りごと

ヤングケアラーは、その置かれている家庭環境のから、**学校の成績や将来のことに悩みを抱えている**ことがわかる。

設問：普段の生活で悩んだり、困っていることはありますか。（複数回答）

全体 N=435

回 答	%
将来（進路）のこと	26.4
学校の成績のこと	20.9
自分に自信が持てないこと	19.8
友だちのこと	14.7



ヤングケアラー n=21

回 答	%
学校の成績のこと	52.4
将来（進路）のこと	42.9
自分に自信がないこと	28.6
友だち関係のこと	23.8

※上位4位を抜粋

二次分析（島根大学宮本恭子教授より）

- ・ **ヤングケアラーとヤングケアラー予備軍**（近い将来、ケアする可能性がある子どもたち）を含めて、対策を考える必要性がある。

全体の**14.9%**（内訳：小学生12.6% 中学生16.1% 高校生13.7%）

【課題】

1. ヤングケアラー・福祉・介護についての啓発、学習（出前講座等）

疾患などにマイナスイメージを持たないよう福祉・介護の正しい知識を持つ機会を作る事。
ヤングケアラーを正しく知るための啓発、学習の機会を作ること。

2. 学習面でのサポート（個別対応）や進路相談

長期間のケアで学習面での遅れが生じているケースには、個別対応で学習をサポートする。また、進路に悩んでいる生徒には進路相談でフォローする。

3. 高校卒業後のヤングケアラー支援の継続性の検討

高校卒業後、支援の網から外れてしまう可能性があり、どのように継続していくか。

2. 栗山町ケアラー支援推進計画 令和4年度評価について

評価方法

- 栗山町ケアラー支援推進計画は、栗山町ケアラー支援条例により**毎年度評価**が定められています。
- 評価方法は昨年度同様に、各施策に対して、計画の「**実施状況と今後の予定**」、「**評価**」、「**方向性**」を事務局にて記載した原案を委員の皆様配布します。
- 上記の内容の確認・修正と**委員からのコメント**記載の上、事務局に返送願います。（4月21日締切）

※メール送付を希望される委員の方は、事務局より送信します。

3. 次年度の予定

次年度の実施予定の内容

1. 仕事と介護の両立支援事業
2. ケアラーシンポジウム・学習会の開催
3. ヤングケアラー施策の推進
4. 第2期栗山町ケアラー支援推進計画の策定作業

(1)仕事と介護の両立支援事業

・仕事と介護の両立支援セミナーの実施

①目的

ケアラーが、介護問題を抱え、その負担から介護離職を余儀なくされる
ことが問題視されていることから、介護の実態に即しながら、法理解や実
務を学び、離職防止につなげることを目的とする。

②共催

栗山町・栗山町社会福祉協議会・栗山商工会議所

③開催時期

令和5年6～7月を予定

④内容

- ・育児介護休業法の理解と働き方改革
- ・介護の実態と介護保険制度の紹介
- ・両立支援に関わる助成金の申請方法や従業員の給与保障など

・働きやすい職場宣言

①目的

仕事と介護の両立支援にあたり、宣言企業が働きやすい職場としての環境整備とPRできる仕組みづくりを行う。

②方法

宣言企業は、町に宣言に関する申込書を提出し、登録と併せて宣言書やステッカーを交付を検討する。宣言企業は、町ホームページで掲載予定。

③実施時期

令和5年7～8月の予定

④その他

「仕事」と「介護」の両立支援セミナーにて周知し、タイアップ企画として実施する。

(2) ケアラー支援シンポジウム・学習会の実施

- 令和4年度の実績

令和4年度家庭教育講演会において、島根大学の宮本恭子教授を招いて、「ヤングケアラー」をテーマとした講演会を実施。

- 令和5年度は、ヤングケアラーの路線を踏まえつつ、ケアラー支援にあたっての課題などをシンポジウム又は学習会の形式で実施を検討する。

(3)ヤングケアラー施策の推進

- ・ヤングケアラー問題の対応策として、二次分析報告に基づき下記の対策を進める予定。

【対策】

- ①**幼保小中高・介護福祉学校との連携の中で、発達段階に応じた 福祉教育とケアラー支援の立場から、ヤングケアラー対策(学校のプログラムや支援体制)の提案を学校側に行い、令和6年度にはスタートできるように協議する。**
- ②**ヤングケアラーに関するケアラー支援推進協議会の分科会又は関係者によるプロジェクトチームの結成を検討する。**

(4)第2期ケアラー支援推進計画の策定

- 令和5年度が現計画の最終年度に当たり、更新作業を行う

スケジュール案

年 月	予 定
令和5年5月～ 6月	アンケート案の作成と協議会（第1回）でのケアラー実態調査アンケートの説明
6月～ 8月	アンケートの実施と集約
9月～10月	協議会（第2回）でのアンケート結果の報告、計画骨子案の作成と計画内容のグループワーク（予定）
10月～11月	計画原案の作成と協議会（第3回）計画原案の説明及び承認
12月	栗山町議会全員協議会での承認